

# JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：モンゴル 政府宮殿

## Topics

### 活躍する帰国留学生（モンゴル、キルギス）

- ◆ 2025年度JDS行政官交流会を開催しました
- ◆ 帰国留学生向けフォローアップセミナー・交流会を開催しました
- ◆ ほっと一息：モンゴル

今回は、活躍する帰国留学生（モンゴル、キルギス）を紹介します。



## Mr. BADRAKH Naidalaa (バドラフ・ナイダラー 氏)

神戸大学大学院国際協力研究科、2004年修了、モンゴル国エネルギー大臣



2026年4月3日、モンゴルJDS帰国留学生のバドラフ・ナイダラー氏はエネルギー大臣に任命されました。同氏はJDSモンゴル1期生として2002年に来日し、神戸大学大学院国際協力研究科の修士課程に留学しました。

同氏は日本での留学中、モンゴルにおける実質為替レートの均衡水準の推計について研究を行いました。帰国後はエコノミストとして活動し、モンゴル銀行連盟の会長兼事務局長などを歴任した後、国会議員として活躍してきました。

バドラフ・ナイダラー 氏  
出典：[モンゴル議会サイト](#)



## Mr. TALAS Aidarbek uulu (タラス・アイダルベック・ウールー氏)

国際大学大学院国際関係学研究科、2020年修了、キルギス共和国財務省第一副大臣



2026年3月31日、キルギスJDS帰国留学生のタラス・アイダルベック・ウールー氏は財務省第一副大臣に任命されました。同氏は、JDSキルギス12期生として2018年に来日し、国際大学大学院国際関係学研究科の修士課程に留学しました。

[キルギス財務省のオンライン記事](#)によると、財務大臣がタラス氏の就任を発表した声明の中で、同氏のこれまでの経歴に触れるとともに、予算政策部門における効果的な業務遂行、高い専門性、原則を重んじる姿勢、そして強い責任感が評価されました。

タラス・アイダルベック・ウールー氏  
出典：[KAKTUSMEDIA](#)

両帰国留学生の、更なる活躍が期待されます。

# 2025年度 JDS行政官交流会を開催しました

2025年11月から12月にかけて、JDS留学生と本邦省庁の行政官との交流会を計7省庁で開催しました。本交流会は、各省庁におけるJDS事業の認知度向上や、我が国の行政官とのネットワーク形成等を主な目的としたものです。当日は、省庁の行政官が講師となって行われる講義や行政官と留学生との間の意見交換を組み合わせ実施しました。



経済産業省にて

省庁の講師による講義では、具体的な事例を交えて、各省庁が取り組む政策や課題が紹介されました。交流会は主に省庁内での実施となりましたが、文部科学省のように、東京大学先端科学技術研究センター駒場リサーチキャンパスにて、講義だけでなくキャンパスツアーや省庁職員との交流を行った省庁もありました。

参加した留学生からは、「経済産業省が実施している国際的な技術協力や人材育成プログラムについて、その全体像を非常によく理解することができました」(経済産業省との交流会参加者)といった声が寄せられました。

また、農林水産省からは、「特に印象に残ったのは、参加者が日本の経験を踏まえながら、自国の実情に即した形で政策立案や課題解決に生かそうとする積極的な姿勢が見られた点です。自国に戻ってからも、今回の経験を活用し、日本との関係を一層発展させていく人材として活躍することを期待しています」とのコメントが寄せられました。

また、交流会の終了後には、省庁関係者とJDS留学生が名刺を交換し、今後の二国間における協力の可能性について議論する様子も見られました。本交流会の実施を通して、日本とJDS対象国における分野毎の相互理解や、両国関係者間のネットワークの強化が期待されます。



農林水産省の講師による講義

SINCE 1999



Where  
Leaders  
are made.



**JDS** The Project for  
Human Resource Development  
Scholarship

# 帰国留学生向けフォローアップセミナー・ 交流会を開催しました

フォローアップセミナーは、JDS帰国留学生同士およびJDS関係者間の関係強化を図るとともに、日本留学を通じて得た知識の深化とその活用を目的として、各国で毎年2～3月に開催されています。ここでは、フィリピンで実施されたフォローアップセミナーと交流会の様子をご紹介します。



一橋大学 笛木琢治 准教授による講義の様子

フィリピンにおけるJDS事業は、2002年の開始以来、20年以上にわたりフィリピン政府における若手リーダーの育成に貢献してきました。本セミナーには、帰国留学生をはじめ、受入大学の指導教員やJICAフィリピン事務所の所員など、JDS関係者が一堂に会し、帰国留学生同士や関係者での一体感が感じられる、終始温かな雰囲気のもとで開催されました。

フォローアップセミナーは、一橋大学、国際大学、筑波大学、横浜国立大学の教授陣が講師として登壇し、人工知能、災害リスクの軽減・管理、世界経済など多岐にわたるテーマについて講義を行いました。各分野における最先端の専門的知見が、JDS帰国留学生に向けて共有される貴重な機会となりました。

参加した帰国留学生からは、「講義で扱われたテーマはいずれも時宜を得ており、実務への活用に加え、最新の動向について理解を深める機会となりました」「先生方による講義は非常に分かりやすく有益で、日本留学中に学んだ内容を改めて振り返る良い機会となりました」など、多くの感謝の声が寄せられました。

また、講義を行った教員からは、「本セミナーは大盛況のうちに終了し、他大学の帰国留学生も含めて参加者たちと楽しく交流することができました。講義内容に対する質問も多く寄せられ、参加者の関心の高さが強く印象に残りました」とのコメントがありました。



セミナー会場にて記念撮影  
出典：[JICAフィリピン事務所Facebook](#) (両写真)

フォローアップセミナーと交流会は、フィリピンの更なる発展に寄与する強固な帰国留学生ネットワークの重要性と、その将来性を改めて確認する機会となりました。



モンゴルは東アジア内陸部に広がる大草原の国で、雄大な自然と独自の遊牧文化が息づいています。果てしなく続く草原や砂漠、山岳地帯など変化に富んだ風景は、人々の暮らしと深く結びつき、遊牧という生活様式を育んできました。モンゴル系民族を中心に、長い歴史の中で周辺地域との交流を重ね、今でも自然と共生する価値観や伝統が大切に受け継がれています。今回は、そんなモンゴルの人々が暮らしの中で親しみ、代々受け継いできた食文化をご紹介します。

### 【Seaberry (サジー)】



出典: How to eat | MSBAモンゴルシーベリー協会

サジーはモンゴルで健康食品として広く知られている果物で、現地では「*Чацаргана* (チャツアルガン)」と呼ばれ親しまれています。小さなオレンジ色の実が特徴で、栄養価の高さから、古くから人々の暮らしに取り入れられてきました。

強い酸味と独特の渋みがあり、生のまま食べることは少なく、主にジュースやお菓子、ジャムなどに加工して楽しまれています。ジュースにすると、ほのかにレーズンに似た風味を感じるのも印象的です。

なお、サジージュースには水などで薄めて飲む希釈タイプもあるため、購入時には注意が必要です。(実際に、初めて飲んだ際に原液だと知らずに口にしてしまい、その酸味の強さに驚いた、という声もあるそうです。)

### 【Ul boov (ウル ボーブ)】

ウルボーブはモンゴルを代表する伝統的なおやつですが、主にお正月・お礼・結婚式・断髪式などの特別な日に登場します。食感は外側が少しサクッと、中はぎゅっと詰まっいて食べごたえ十分。油で揚げた香ばしさが特徴で、甘さは控えめです。日本のおやつに例えると、少し固めのかりんとうや、砂糖を控えたドーナツに近い味わいです。



出典: ReelNews

## JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**  
※一部例外がございます
- 2 **6,708名 28カ国の実績**  
※事業終了国の人数も含む ※2025年度までの人数
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、  
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、  
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、  
ケニア、セネガル、ウクライナ、モザンビーク

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、  
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、  
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による  
JICA留学生事業です。

## 編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

今回は、広報誌において、モンゴルチーム念願となる帰国留学生が高官の中でも大臣に就任されたことを紹介する記事を掲載することができ、大変喜ばしい号となりました。

モンゴルではこれまでも多くのJDS帰国留学生が各分野で活躍してきましたが、大臣の輩出には至っていませんでした。JDSは行政官の育成を目的とする事業であることから、帰国留学生が大臣に就任することは想定を超える出来事であり、今回のニュースは関係者一同にとって大きな喜びとなりました。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

### 【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)  
留学生事業第一部広報担当  
E-MAIL: jds.pr@jice.org